

東京通信病院 泌尿器科特集

Doctor's interview

泌尿器科 部長
佐藤 雄二郎
Sato yujiro

01

着任の挨拶、東京通信病院の泌尿器科の特徴

2026年4月より泌尿器科部長に赴任いたしました、佐藤雄二郎（さとうゆうじろう）と申します。私はこれまで東京大学医学部附属病院、東京都健康長寿医療センター、東京都立多摩総合医療センター、日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字病院、同愛記念病院にて臨床経験を積んでまいりました。逓信病院赴任前は国立国際医療センター泌尿器科医長として腹腔鏡手術・ロボット支援手術といった低侵襲手術に取り組んできました。

当院では本年1月より Da Vinci Xi® が導入され、外科がロボット手術を開始しました。泌尿器科でも5月から前立腺がんに対するロボット手術を開始しております。前立腺は骨盤の奥深くにあり、従来の開腹手術では視野が悪く難易度が高かったのですが、3D 拡大視野と細かいアームにより、繊細な手術が可能となりました。

泌尿器科は、腫瘍（腎臓、前立腺、膀胱）・尿路感染症・尿路結石（腎臓、尿管、膀胱）・排尿障害（前立腺肥大症）など、幅広い領域を扱う専門性の高い科です。逓信病院の泌尿器科は1938年（昭和13年）の病院開設当初から診療を開始しており、先輩医師達から代々引き継がれてきた、低侵襲性・QOL（生活の質）を重視した治療を目指しています。

02

医師を目指されたきっかけと、泌尿器科を専門とされた理由をお聞かせください。



高校時代に進路を決める際、他人が笑顔になれる、人の役に立てるような仕事をしたいと思うようになりました。人間にとって健康は何よりも重要なことであり、病気を根本から治すことで笑顔につなげられるのではないかと考えるようになりました。そのためには医師の知識と権限が必要と考え、医師を目指すようになりました。

泌尿器科は大きな外科手術と薬物治療の両方を行い、そして診断から治療・その後のフォローまで、一人の患者さんを最初から最後まで責任を持ってみつづけることができます。他の科にない魅了を感じて泌尿器科を専攻しました。

03

医師になり最も注力してきたことについてお聞かせください。
また、今後の展望についてのお考えをお聞かせください。



泌尿器科医として、ロボット支援手術および腹腔鏡手術の習熟に力を注いでまいりました。

低侵襲手術は、出血量の軽減や術後疼痛の緩和、入院期間の短縮など、患者さんの身体的負担を大きく減らすことができます。一人でも多くの患者さんにその恩恵を届けたいという思いから、日々技術の研鑽を積み重ねてきました。

また、泌尿器科疾患は患者さんにとってデリケートな問題を伴うことも多く、丁寧な説明と対話を通じて、患者さんが不安なく治療に臨めるよう、コミュニケーションを大切に

してきました。こうした診療は、泌尿器科チーム全体で連携し、看護師や他職種とともに患者さんを支える体制のもとで実践してきたものであり、チーム医療の大切さを改めて実感しております。

手術療法にとどまらず、薬物療法や保存的治療も含めた泌尿器科治療全般において、患者さん一人ひとりの状態や希望に寄り添った適切な医療を提供できるよう、チーム一丸となって取り組んでまいります。

また、若手医師の育成にも力を入れ、科全体の診療レベルの向上に貢献していきたいと考えております。

04

最後に、けんこう家族をご覧の方へメッセージをお願いします。



前立腺がんをはじめ、腎腫瘍・膀胱腫瘍・尿路結石など幅広い疾患に対して、より精密で低侵襲な手術を地域の患者さんへお届けできる体制が整いつつあります。

これからも安全で質の高い医療を提供に努めてまいります。ご不安な点やお困りの事がございましたら、お気軽にご相談下さい。

東京通信病院 泌尿器科 左から宮田 貴道医師、佐藤 雄二郎医師、藤 隼人医師